

ご挨拶



学長 大西 晴樹

明治学院大学の教育理念は ‘Do for Others’ 「他者への貢献」です。これは、新約聖書の言葉であると同時に、明治学院の創始者 J.C.ヘボン博士の生涯を貫く理想を一言で表現したものです。

ヘボン博士は、幕末維新の日本へプロテスタント・キリスト教を伝えるべく来日したアメリカ人宣教医師です。医師としてニューヨークで成功を収めながらも、開国したばかりの横浜に上陸しました。当時の日本は尊皇攘夷の嵐が吹き荒れ、まだキリシタン禁令の高札が掲げられていた時代です。身辺にはスパイが潜入し、クララ夫人は何者かに殴打され心身ともに傷を負ったことさえありました。それでも博士はキリスト教の言葉に堅く立って、無償で弱者への施療活動をなし、患者との出会いを通して日本語を学び、夫人とともに青年に英語を教えるべく明治学院の前身であるヘボン塾を開設し、日本最初の本格的和英・英和辞典である『和英語林集成』を編集・出版、ついに聖書を日本語へ翻訳したのでした。

さて、明治学院大学の教育活動で、この教育理念を体現したのがボランティア活動だといえましょう。1990年代前半の明治学院大学においてボランティアは、いく人かの教員によるリレー方式の総合講座として教室で教えられていました。しかし、1995年の阪神淡路大震災において、ボランティア活動の重要性が認識され、ボランティア活動を正課であれ、課外であれ、明治学院大学において推進することに学内コンセンサスが与えられました。じっさい明治学院大学は、震災後、明治学院ゆかりの神戸の賀川記念館を拠点として、延べ数百名の学生が現地に入り、おもに子どもや老人のケアに献身的に当たり、被災した人や参加した学生にとって多くの成果を残しました。その後1998年に横浜キャンパスに全国の大学に先駆けてボランティアセンターが開設され、2001年には、白金キャンパスにも開設されました。その後全国の大学におけるボランティア活動を支援するソニーボランティア・ファンドの事務局として中心的な役割を果たし、優れた教育活動に対して資金が与えられる文部科学省の第一回目の教育 GP (good practice) にも選ばれました。

学長としてみなさんにお伝えしたいのは、‘Do for Others’ という教育理念は「言うは易し、行うは難し」です。ボランティア活動は、相手に感謝されてはじめて意味をもつのであり、そうでなければ、一人善がりのお節介か、たんなる自己満足にすぎません。ボランティア活動を通じて、自分たちの‘Do for Others’の気持ちが、どれほど地域や近隣の人々に感謝されるのか考えてみるのは、他者を理解するうえで大切なことであり、もし感謝されていなければ、どうしたら感謝されるのか、試行錯誤することは、人間の成長にとっても大切なことです。

明治学院大学の教育理念を体現するボランティア活動に、ボランティアセンターを通じて参加することによって、学生の皆さんがお金では買えない大切なものを手に入れることを切に願っています。